

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	公的扶助論 (Public Assistance)		
ナンバリングコード	E20918	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 社会福祉
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	選択: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E017701	クラス名	2021以降学生用
担当教員名	林 孝和		
履修上の注意、履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は必ず受講すること。 ・学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加すること。 ・授業時の座席指定: 適宜、指定の要否を検討し連絡する。 ・毎講義開始時に授業プリントを配布する。講義を欠席した場合等は、欠席学生本人が研究室に取りに来ない限り再配布はしない予定。また、配布したプリントは、各自で保管すること。 ・各講義の終盤で実施する確認テストには、必ず回答すること(出席確認を兼ねる)。 		
教科書	最新 社会福祉士養成講座4 『貧困に対する支援』(中央法規出版)		
参考文献及び指定図書	『生活保護リアル』 みわよしこ(2013) 日本評論社 『新・よくわかる福祉事務所のしごと』 結城康博 ほか(2013) ぎょうせい		
関連科目	社会福祉原論、社会保障論、高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、就労支援サービスなど。		

○基本情報							
授業の目的	この科目では、社会福祉分野の中でも、「貧困に対する支援」を中心に学習する。この学修を通して、低所得者の現状や支援を学ぶだけでなく、当事者の生活をイメージしながら専門職としてどのような支援が必要なのかを考える。また、生活保護制度や低所得者に対する支援策などの制度面においても、現行制度の理解した上で、自分なりの考えをまとめる。						
授業の概要	公的扶助とは、生活に困窮する者に対し、その者の資力と需要を調査した上で、公的な一般財源から支出される経済給付(現金または現物給付)のことをいう。我が国では生活保護制度がこれに当たる。 公的扶助論では、生活保護の原理・原則、保護の種類・範囲・方法、保護の基準・実施機関など、生活保護制度全般に学習する。また、その他の貧困層・低所得者対策も視野に入れながら、憲法25条に規定された「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなものなのか、また、当事者に対する支援として何が必要とされるのかを考える。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「グループワーク」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	「グループワーク」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	今日の生活困窮者支援(生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など)、雇用、就労状況と生活について理解している。	10点		
【知識・理解】	生活保護制度の基本的な内容(原理・原則、権利と義務、扶助の種類等)、低所得者対策、ホームレス支援などについて理解している。	60点		
【技能・表現・コミュニケーション】	講義内容を踏まえ、貧困を取り巻く諸問題について、自らの考えを説明・発表することができる。		20点	
【思考・判断・創造】	生活保護制度の現状、あり方しについて自分の考えを説明できる。			10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
定期試験及び毎講義終了時の確認テストの結果等をもとに総合的に判断する。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 ※確認テストで申し出のあった質問・改善事項については、次回の講義時などに可能な限りコメントしたり、個別メールを使って回答する。

○その他
<ul style="list-style-type: none"> ・進行状況や学修状況等により講義内容の追加や削除等変更をする場合がある。 ・私語厳禁。講義に不要な私語は慎むこと。 ・ペットボトルなど講義に不要な物を机の上に置いて受講しない。 ・講義内で受講生の意見を把握するため、スマートフォンを使う場合がある。モバイルデータ通信または学内Wifiを使って回答するようにしてほしい。

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	公的扶助論 (Public Assistance) 林 孝和	授業コード	E017701
学修内容				
1. オリエンテーション 本講義の目的、到達目標及び授業計画等について説明する。				
予習	シラバス・本講義の目的、到達目標等の内容確認		約2時間	
復習	講義の目的、到達目標の整理		約2時間	
2. 公的扶助の概念・意義・役割 社会保険と比較しながら公的扶助の特質を学ぶ。また、ナショナル・ミニマムという概念の理解を目指す。				
予習	公的扶助・社会保険の役割:調べ学習(予習)		約2時間	
復習	公的扶助の特徴と狙い、社会保険の特徴と狙いを整理する		約2時間	
3. 貧困・低所得者問題と現代的課題 貧困とは何かを考える。その際、貧困に関する多様な見方を紹介する。また、貧困状態にある人の生活実態について学習する。				
予習	貧困概念:調べ学習(予習)		約2時間	
復習	貧困者の生活実態、原因、貧困に対する多様な見方などの整理		約2時間	
4. 公的扶助制度の歴史 貧困の歴史を概観し、日本の公的扶助の歴史について学習する。				
予習	我が国の公的扶助に関する歴史:調べ学習		約2時間	
復習	公的扶助の政策が、どのような過程を辿って現在に至ったのか整理する		約2時間	
5. 生活保護制度の仕組み① 公的扶助を体現した生活保護制度の目的と原理、原則について学習する。				
予習	生活保護法の原理・原則:調べ学習		約2時間	
復習	生活保護法の原理・原則の内容整理		約2時間	
6. 生活保護制度の仕組み② 生活保護の種類と内容および方法について、具体的に学ぶ。				
予習	生活保護の種類(8つの扶助):調べ学習		約2時間	
復習	生活保護の種類について内容を整理		約2時間	
7. 生活保護制度の運営実施体制、福祉事務所の役割 我が国における生活保護行政の実施体制を学習する。主に福祉事務所設置の法的根拠、設置目的を理解し、業務内容を概観しながら、それに関連する社会問題を学ぶ。				
予習	福祉事務所の法的根拠、役割、主な業務内容:調べ学習		約2時間	
復習	福祉事務所に勤務する査察指導員、現業員の役割を整理する。		約2時間	
8. 母子及び父子並びに寡婦と生活保護 ひとり親世帯の現状を学ぶと共に、福祉事務所が行う支援や、母子自立支援員・婦人相談員の役割、DV(配偶者等による暴力)、相談・一時保護などを学ぶ。				
予習	ひとり親世帯の現状:調べ学習		約2時間	
復習	ひとり親世帯を支援する様々な施策を整理する。		約2時間	

○授業計画	科目名 担当教員	公的扶助論 (Public Assistance) 林 孝和	授業コード	E017701
学修内容				
9. ケース検討①(ひとり親世帯と生活保護) 生活保護世帯、ひとり親世帯のケースを取り上げ、どのように対応するのが適切なのかグループで討議する。				
予習	ひとり親世帯の現状:調べ学習		約2時間	
復習	ひとり親世帯を支援する様々な施策を整理する。		約2時間	
10. 高齢者と生活保護 福祉事務所における高齢者支援の内容、老人福祉法と措置、高齢者虐待防止法とその支援のあり方などを検討する。				
予習	高齢者虐待の定義・種類:調べ学習		約2時間	
復習	生活保護受給世帯のうち高齢者が占める割合、被虐待高齢者の保護のあり方を整理する		約2時間	
11. 生活保護の動向 現代における被保護人員、世帯数、世帯類型の割合、保護の開始・廃止理由を学習する。				
予習	生活保護の動向:調べ学習		約2時間	
復習	現代における生活保護の現状を知り、今日に至るまでのプロセスを整理する		約2時間	
12. ケース検討②(精神障がい者と生活保護) 精神障がい者世帯のケースを取り上げ、どのように対応するのが適切なのかグループで討議する。				
予習	生活保護受給世帯のうち疾病・障害世帯の占める割合:調べ学習		約2時間	
復習	精神障害者に対する支援		約2時間	
13. ケース検討③(児童虐待と生活保護) 児童虐待のあったケースを取り上げ、児童虐待の現状、福祉事務所との関わりなどを理解する。				
予習	児童虐待の現状:調べ学習		約2時間	
復習	児童虐待防止に関する諸施策を整理する		約2時間	
14. その他の貧困に対する支援に関連した諸制度・サービスの概要 生活保護以外の低所得者対策について学ぶ。具体的には生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度等について学習する。				
予習	生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度の概要:調べ学習		約2時間	
復習	生活困窮者自立支援制度、生活福祉資金貸付制度の要点を整理する		約2時間	
15. 試験前オリエンテーション これまでの講義を振り返るとともに、定期試験における出題範囲、出題形式、評価基準等を説明する。				
予習	これまでの講義に関して復習・調べ学習		約2時間	
復習	現代社会の貧困について内容整理		約2時間	
16. 期末試験				
予習				
復習				